

〈解答〉

- ① (1) ① 1 ② 9 (完答)  
 (2) ア  
 (3) 〔例〕 (気温が上昇するにつれて) 湿度はしだいに低くなっていった。  
 (4) ① ア ② イ (完答)  
 (5) 13.6 g

配点 各1点 5点満点

〈解説〉

- ① (1) 空全体の面積を 10 としたときに、空全体に対して雲が占める割合を雲量という。雨や雪などの降水がない場合には、雲量 0～1 を快晴、2～8 を晴れ、9～10 をくもりとする。なお、一般の天気図で天気を表す主な記号として、右の図のものを用いる。



- (2) 風向とは、風がふいてきた向きのことなので、天気を表す中央の円（選択肢ア～エでは省略されている）から南西（左下）に風向を表す直線を引き、風力を表す 2 本の矢羽根を、中央の円から反対側に傾けて時計が回る側につける。
- (3) 湿度のことを相対湿度ともいい、そのときの気温における飽和水蒸気量（空気 1 m<sup>3</sup> 中に含むことができる水蒸気の限度の質量）に対して、実際に空気 1 m<sup>3</sup> 中に含まれている水蒸気の質量の割合を百分率で表したものである。天気がよいときは、気温が変化しても空気中に含まれている水蒸気の質量はあまり変化しない。したがって、午前中に気温が上昇して飽和水蒸気量が大きくなるにつれて、湿度は低くなっていく。
- (4) 寒冷前線が通過すると、暖気から寒気の範囲に入るのので、通過前に比べて通過後は気温が低下する。また、寒冷前線の上空付近に発生している積乱雲の影響によって、強い雨が短時間降ることが多い。さらに、風向が南寄りから北寄りに変化し、突風がふいたりすることもある。1 表より、午後 2 時から 4 時の間に、雨が降り出して気温が急激に低下し、風向が南寄りから北寄りへと変化しているので、寒冷前線がこの時間帯に通過したことがわかる。
- (5) 午後 4 時の気温 19℃ における飽和水蒸気量が 16 g/m<sup>3</sup>、湿度が 85% なので、空気 1 m<sup>3</sup> 中には
- $$16 \times 0.85 = 13.6 \text{ [g]}$$
- の水蒸気が含まれていることになる。